

浜岡原子力発電所 5号機 原子炉建屋における脱塩水の漏えいについて(続報)

2011年7月20日

■今回お知らせする内容

| | |
|-----|---|
| 原因 | <p>接続ホースの破損原因を調査した結果、使用条件の一つである許容曲げ半径(3000mm)より小さい半径(850mm)で接続ホースを施工していたことがわかりました。</p> <p>それによりホースが強く引っ張られ破損したと推定しました。</p> |
| 対策 | <p>当該接続箇所のホースの使用を止め、鋼管を使用します。また、脱塩水^{※1}を使用する時以外は、接続箇所の前後の弁を閉止します。</p> <p>また、今後、接続ホースを使用する際には、許容曲げ半径等の使用条件を満足していることを確認します。</p> <p>さらに、一時的に使用する仮設備全般について、使用条件を満足していることの確認を徹底するため、社内文書に反映します。</p> |
| その他 | <p>漏えい水については、液体廃棄物処理系にて適切に処理しました。</p> <p>また、被水した避難誘導灯については、今後取替を実施します。同じく被水したタンクレベル検出器等については、点検結果に異状はありませんでした。</p> <p>漏えい箇所の拭き取り作業に先立ち、床の表面汚染密度を測定したところ、地下1階、地下2階に設置された一部の排水枡付近に微量の汚染(最大:約10ベクレル^{※2}/平方センチメートル)を確認したため、除染をおこないました。</p> <p>汚染が確認された原因は、建屋2階で漏えいした脱塩水が、建屋排水系に一度に流入したため、地下1階、地下2階に設置されている一部の排水枡からあふれ、その際、建屋排水系配管の内面等に付着していた放射性物質が混じったものと推定しています。</p> <p>汚染が確認されましたが、放射能の外部への漏えいはありませんでした。また、除染に従事した作業員等に計画外の放射線を受けた者はありません。</p> |

■これまでにお知らせした内容

(2011年7月12日公表)

| | |
|--------|---|
| 発生場所 | <p>5号機(停止中):改良型沸騰水型、定格電気出力138万キロワット 原子炉建屋2階(放射線管理区域)</p> |
| 発生時の状況 | <p>2011年7月12日午前10時20分頃、中央制御室に原子炉建屋地下2階の床漏えいを示す警報が点灯したところ、その直後、協力会社社員から原子炉建屋2階で漏えいが発生しているとの連絡を受け、当社社員が2階で漏えいを確認しました。</p> <p>漏えいは、原子炉冷却材浄化系^{※3}フィルタの洗浄のため、本来使用する補給水^{※4}のバックアップとして使用していた脱塩水の接続ホースの破損により発生したものと推定しています。</p> <p>漏えい量は脱塩水タンクの減少量から約40m³と推定しています。</p> <p>なお、念のため本事象による被水した設備の状況を確認した結果、一部避難誘導灯やタンクレベル検出器等が被水し、不具合を確認したものの、その他の設備には影響がないことを確認しました。</p> |

※1 脱塩水は、新野川の伏流水を脱塩処理したものであり、放射能を含んでいません。

※2 ベクレルとは、放射線を出す能力を表す単位で、1ベクレルは、1秒間に1個の原子核が崩壊することを表します。

※3 原子炉冷却材浄化系は、原子炉水中の不純物を除去し、水質を維持させるための系統です。

※4 補給水は、発電所の運転に再利用している水で、放射性物質を含む水を液体廃棄物処理系で処理して使用します。

以上